

言葉の壁をこえて、 つながる。



μ NPO法人メタノイア

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

目次

本事業の趣旨	1
1. あだちプレスクール	2
2. 岐阜おとなの日本語教室（瑞穂／各務原）	8
3. オンライン子どもの日本語教室	10
4. 外国ルーツの住民支援団体ネットワーク	11
まとめ	12

外国ルーツの住民と社会をつなぐ日本語学習支援ネットワーク構築事業 趣旨

立ちはだかる「言葉の壁」

文科省によれば、「日本語指導が必要な児童生徒」（日本語での日常会話が十分にできない子どもや学習に支障が生じている子ども）は全国に 58,000 人以上(*1) いるとされています。こうした子どもたちに国や自治体も日本語学習機会の拡充に向けた議論を進めていますが、一部の支援先進地域を除いては、十分な日本語教育が行われているとは言いがたいのが現状です。

施策が日本全国に行き渡る日を待っている、子どもたちが年齢を重ね、十分な学びの機会を得ることがないまま大人になってしまいます。行政施策の充実とともに、NPO 等の民間によるスピード感をもった現場づくりの実践もまた必要だと考えています。

求められる子どもの日本語学習機会の拡充

私たち NPO 法人メタノイアは 2021 年の設立当初から、そういった外国にルーツをもつ 3～18 歳の子どもを対象とした日本語教室を開講してきました。その中で、日本語が分からず学校の授業についていけなかったり、友だちができず孤立したりする子どもたちの姿を数多く見てきました。また、日本語が分からず怖くて幼稚園を辞めた子、登園していても園生活や小学校就学に大きな不安を抱える親子とも出会いました。保護者から「週に 1 回の日本語教室だけでなく、もっと長い時間じっくりと日本語を学べる機会がほしい」という声が多く聞かれました。

大人になった人も望む生き方を選ぶように

子どもたちだけではありません。例えば、1990 年代から 2010 年代にかけて移住労働者として数多く来日した日系人は、日本経済の事情により目まぐるしく移り変わる在留管理制度に翻弄され、最近では失業や収入の減少を余儀なくされています。仕事がなくなりつつある中で、むしろこれまでのような日本語を使わなくてもできる工場労働に留まらず、「日本語を勉強して、自分が本当にやりたいことを見つけて仕事にしたい」という声も上がってきています。自ら望む生き方を選びとれるよう、大人にも日本語習得の機会を提供する取り組みの必要性が見えてきました。

現場づくりの実践と支援者ネットワーク構築の両輪で

本事業では、東京都足立区における幼児の就園・就学準備クラス「プレスクール」と、幼児から中学生までを対象とした「オンライン子どもの日本語教室」、そして岐阜県における「おとなの日本語教室」を実施しました。また、NPO・行政・企業・社会福祉法人などが参加する支援者ネットワークを通じて、外国にルーツをもつ子どもたちを切れ目なく見守る地域づくりを進めています。さらに、こうした実践を通じて得た知見を、全国の日本語教室運営者等に広く共有し、広域での課題解決に向けた動きを加速させる試みにも取り組んでいます。

本報告が志を同じくする実践者の皆さまの目に留まり、更なる実践の充実とネットワークの拡大につながり、引いては外国にルーツをもつ住民も幸せに生きていける社会制度の構築に資することになれば幸いです。

*1) 「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査（令和 3 年度）」（2022 年 10 月 18 日、文部科学省）
https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/09/1421569_00004.htm

1. あだちプレスクール

目的	言葉の壁で幼稚園・保育園に通いづらい外国にルーツをもつ幼児に対して日本語習得や集団生活の機会を提供することで、幼保園及び小学校へのスムーズな統合を後押しします。また、この実践をモデルケースとして進め、得た知見を国や自治体等の行政や他のNPO等と共有することでプレスクールの普及を促進し、多様な背景の子どもを包摂する地域社会づくりに寄与します。
内容	日本語教師による言語習得支援、保育士による育ちの支援等を通じて、外国ルーツの幼児が無理なく通園や小学校入学のレディネスを養える環境を整備します。
対象	主として外国にルーツをもつ4歳～5歳（幼稚園・保育園に通わない子どもを含む）
担当	日本語教師・コーディネーター：日本語教師有資格者 保育士：保育士有資格者
場所	認定NPO法人キッズドア 国際交流センター内（東京都足立区）
時期	2022年6月～2023年3月 毎週月・水・金曜日 各回2時間 〈全93回〉
人数	全登録者14人 / 1回あたり平均参加者 約3.3人

連携団体との協働・知見の共有

認定NPO法人キッズドア様より会場（右写真）を無償で借り受ける一方、当法人からはプレスクールに関する知見を提供する、双方に利のある形で連携を行いました。

また、国の省庁によるヒアリングに協力し、言語の違い等から幼保園に通えない子どもたち（不就園児または無園児と呼ばれる）の背景について情報を提供しました。



母語の発達を促しながら

多言語環境で育つ子どもにとって、母語の確かな発達が第二言語習得の鍵になると言われています。言語多様性が豊かなカナダで作成された「子どもの成功を願うなら、母語を大切にしましょう」というポスター(*1)(右写真)を本事業のプレスクール会場に多言語で掲示し、家庭での積極的な母語使用を保護者に推奨しています。



*1) ウェブサイト「mylanguage.ca」(<https://www.mylanguage.ca/resources.html>) より

プレスクールの教材

ホワイトボードには、その日の日付と天気をひらがなと数字で書いています（例：3がつ4にち げつようび てんき：はれ）。教室の最初のあいさつの時に子どもたちと日付を言い、天気を確認し、天気カードを貼っています。

そのあとに50音の歌を歌います。ひらがな表を見ながら、「とんとんとんとんひげじいさん」の歌に合わせて歌っています。

ひらがな表（くもん出版「ひらがなカード」付録）▶



◀ 本棚には、区立図書館から借りた本や図鑑、紙芝居を置いてあります。団体カードを作成し、一度にたくさんの絵本を借りることができます。子どもたちの好みに合わせて本を選ぶことや、さまざまな絵本を置いておくことで子どもたちの興味を引き出すことができると考えています。

子ども一人ひとりに「ファイル」を配布しています。教室が始まるまでに先生と一緒にスタンプカードにシールを貼っています。子どもとコミュニケーションをとるために、無地のシールだけでなく、動物などのシールも使用しています。マスがシールで埋まっていく達成感を味わうことや、ゴールを目指して楽しく教室に来られるようになることを目的としています。▶



◀ 文字や言葉のカードは、フラッシュカード形式で使うだけでなく、カルタやお店屋さんごっこなどの遊びでも使います。単に文字や言葉を丸覚えするよりも、楽しいアクティビティを通して絵・ことば・文字を結び付けながら身につけることが、幼児には特に効果的だと考えています。

1日のスケジュール（6月～12月：遊びから学ぶ時期）

プレスクールを開講した2022年6月～2023年3月までの活動を〈6月～12月：遊びから学ぶ時期〉と〈1月～3月：入学準備期〉の2つに大別しています。

〈1日のスケジュール例：6月～12月〉

16:00-16:10	あいさつ・ひらがな50音の歌
16:10-16:25	プリント学習（運筆練習・ひらがな・数字など）
16:25-16:30	絵本の読み聞かせ
16:30-17:15	製作（季節に合わせたものなど）
17:15-17:20	休憩
17:20-17:45	運動遊び（いろおに・リレー・ハンカチ落としなど）
17:45-17:55	絵本の読み聞かせ
17:55-18:00	歌・あいさつ

6月から12月にかけては、製作と身体を動かす遊びがメインの教室活動です。運筆練習や文字に親しむ時間も少し設けていますが、子どもが興味をもって意欲的に取り組める範囲で行いました。

製作の時間は、主に季節に合わせたものを作ります。各自が机で取り組む個人作業のものや、みんなで一つのものを作り上げる集団作業のものがあります。来日したばかりでこれから初めて日本の幼稚園に通うという子どもも少なからずいるため、楽しい作業を通じて「かして」「いいよ」というやり取りや、切る・貼るといった動詞、色・道具の名称といったサバイバル日本語（幼稚園・保育園生活に必要な最低限の日本語）の語彙に慣れることを主な目的としています。

製作のあとは身体を動かす遊びを行います。日本語で説明されるルールに従い、競い合ったり協力したりする活動を通して、子ども同士や先生との対話の機会を設けています。加えて、「走って」「立って」「ジャンプして」や「はやく」「たかく」といった言葉に従い体を動かすことで、体験的に語彙を獲得していくことができます。



秋に行った製作の写真です。折り紙と本物の葉で大きな木を作り、画用紙や毛糸で作ったきのこやみのむしを貼りました。



牛乳パックで作成した電車を段ボールで作った線路の上で走らせる遊びから、椅子を並べた電車ごっこに発展しました。子ども同士で話し合いながら遊びをつくっています。

1日のスケジュール（1月～3月：入学準備期）

年長児は小学校入学に向けた準備として、文字の学習に移行します。日本語が母語ではない子どもがひらがなの読み書きに慣れないまま小学1年生になると、授業についていくことが困難になるケースも多いからです。

〈1日のスケジュール例：1月～3月〉

16:00-16:10	あいさつ・ひらがな 50 音の歌
16:10-16:50	ひらがなドリル
16:50-16:55	休憩
16:55-17:15	小学1年生の国語の教科書
17:15-17:45	算数の内容を取り入れた活動（買物ゲーム・レストランごっこなど）
17:45-17:55	絵本の読み聞かせ
17:55-18:00	歌・あいさつ

ひらがなドリルを使って、読み書きを学びます。子ども一人ひとりのペースに合わせて行い、1ページが終わったら先生に大きなはなまるをつけてもらいます。こうして得られる「学びの成功体験」を積み重ねておくことも、この時間の目的の一つです。



小学1年生の国語の教科書に触れる時間もあります。ただし、教科書の内容理解を目的としているわけではありません。小学生になって国語の教科書を開いた時に「これ知ってる!」と思って自信を持ってもらえたらという願いを込めて行っています。

教科書に登場する「おおきなかぶ」は、劇にして演じ、少しだけセリフも覚えることができました。

また、ゲームなどの活動に小学1年生の算数の序盤の内容を取り入れています。

右の写真は、レストランごっこをしている場面です。お客さん役の子どもが注文を聞き、店員役の子どもが厨房に注文内容を伝え、配膳をします。会計の場面では、客役と店員役の子ども双方で簡単な足し算・引き算をします。



こ い 語彙調査

子どもたちの「ことばの育ち」を定量的に測定するため、語彙調査を実施しました(*1)。『プレスクール実施マニュアル』(*2)を参考に、資料集「語彙調査」の100問のうち、50問を抜粋した設問型の調査を行いました。

年長児を対象に、11月と2月の計2回実施。1人ずつの取り出しで行われることに不安を見せた子どももいたため、「小学生クイズ」と伝え、楽しい気持ちで取り組めるよう配慮しました。

ある子どもは、来日直後だった11月に50問中2問のみだった正答数が、3か月後には43問にまで伸びました。一方、他のある子どもは39問から41問と、ほとんど変化がありませんでした。こうした「ことばの育ち」のペースの個人差を客観的な数値で把握し、今後の支援内容に反映させたいと考えています。



『プレスクール実施マニュアル』
資料集「語彙調査」のカードより

*1) 幼稚園・保育園や習い事、その他日常生活から身につける日本語も多い中で、プレスクールにおける学習効果のみを純粋に測ることは困難です。また、語彙調査は日本語能力全体を測定するものでもありません。しかし「ことばの育ち」を定量的に把握する必要はあると考え、子どもに過度な負担がかからないよう配慮しつつ、本調査を実施しました。

*2) 『プレスクール実施マニュアル』(愛知県、2009年10月作成)
<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/tabunka/0000028953.html>

担当スタッフ（日本語教師）の声

参加者の一人で、幼稚園年長児のOさんが、初めて教室に来たのは来日して1か月の時でした。約半年後に小学校入学を控えていましたが、保護者の方に連れられて教室の入り口まで来ても、入りたくないと言われ、保護者からなかなか離れなかったり、集団で何かを行うことに慣れていなかったのか、他児と何かを一緒にする楽しさに気づいていなかったようでした。活動を通して、他児・先生との対話を通し、今ではみんなと仲良く活動し、保護者からも「我が子にとってプレスクールが一番好きな場所の1つ」と聞いています。少しずつ日本語を覚え、最近では幼稚園でできた友達の名前や幼稚園での出来事などについて、たくさん伝えようとしてくれます。また、後から入ってきた1学年下の年中さんを気にかけて、お手伝いもしてくれるようになりました。プレスクールは、日本語を学ぶことも目的の一つですが、保育の側面もあり、さまざまな観点から子どもの成長のお手伝いをする事ができると感じています。今後も、子どもたちが楽しく通える教室をつくり、少しでも自信をもって小学生になれる子どもたちを増やし、それが全国に広がっていくよう取り組みます。

プレスクール日本語教師 勝又結衣

連携団体の声

プレスクールの会場および備品を無償提供して下さった連携団体の認定 NPO 法人キッズドア国際交流センター様より、村田浩子センター長にご寄稿いただきました。

キッズドアでは、外国にルーツを持つ小学生から高校生までの子どもたちを対象に学習支援を行っています。外国にルーツを持つ子どもたちの学びを止めない支援を行うという共通認識のもと、キッズドア国際交流センター内にてプレスクールを実施していただきました。

プレスクールは、単純に日本語に慣れるだけではなく、プログラム自体が日本で集団生活を行うための基本となっていることを理解しました。子どもたちが、上履きの履き替えや整理整頓を日に日に迷いなくこなすようになっていく様子に、彼らの小学校での姿を重ね将来を想像します。就学年齢になって来日している子どもたちの中には、言葉の苦勞がその先の将来に影響を及ぼすケースも見受けられます。子どもたちのために回避できる環境をいかに作っていくか、という点においても、プレスクールの必要性を感じています。子どもたちひとりひとりの将来のために、地域全体で多文化共生が推進されていくことを強く願っています。

認定 NPO 法人キッズドア 国際交流センター長 村田浩子

保護者の声

参加した子どもの保護者に下記アンケートを実施しました（抜粋）。寄せられた保護者の声から今年度の取り組みをふりかえり、次年度以降の活動の改善につなげていきたいと考えています。

Q1. プレスクールがあってよかったと思うことはありますか？

「来日してまだ半年の我が子にとってプレスクールは一番行きたい場所のうちの1つです。」

「日本で生まれ、2歳から保育園、そして幼稚園、周りの先生と友達はみんな日本語ですから、母語を話すことを嫌がっていました。プレスクールに通ってから、日本語の表現能力がぐんぐん伸びて来ただけではなく、自分のように日本で生活している他の国の子どももたくさんいることを知り、**母語**に対する抵抗感がだんだんと消えてきています。本当に参加できてよかったです。」

Q2. プレスクールで勉強したおかげで自信をもって日本の小学校や幼稚園に通えと感じますか？

(10 = 非常に感じる 0 = 全く感じない)



2. 岐阜おとなの日本語教室

瑞穂／各務原

目的	日系人定住者や永住者などのユースからシニアまでが、日本で自らの個性と可能性を活かして持続可能な働き方ができるよう、専門技能習得や転職の基盤として必要な日本語能力の向上を図る。
内容	グループによる日本語学習 (独立行政法人国際交流基金「『いろいろ 生活の日本語』入門」を使用)
対象	地域在住の日本語学習希望者（主に日系フィリピンコミュニティの方が参加）
担当	日本語教師：日本語教師有資格者 コーディネーター：日系フィリピンコミュニティのリーダー
場所	瑞穂教室：市の公共施設　各務原教室：市内のキリスト教会
時期	2022年6月～2023年3月　毎週日曜日　各教室2時間
回数	瑞穂：31回　各務原：26回
人数	瑞穂：約10人　各務原：約4人（1回あたり平均）

教室開講に至った背景

岐阜県内に2000年代から2010年代にかけて多数来日した日系フィリピン人2世・3世の方々によると、ここ数年、地元企業に雇用されにくくなってきていると言います。一方、地域で働く外国人技能実習生や特定技能労働者は年々増加してきました。企業にとっては低賃金で働いてくれるその人たちを雇用した方が利益が出るためです。

2019年に新設された特定技能制度は、労働者の「能力」に基づき就労が許可される仕組みです。日本語の力は、その「能力」における重要な評価ポイントの一つとされています。日本に定住する日系外国人住民が、新たに入国してくる特定技能労働者との競争に晒されつつも仕事を確保するためには、日本語力の向上が避けては通れない道となってきました。

また、本事業の開講前に聴き取り調査を行ったところ、「日本語を勉強して、工場で働く以外の、自分が本当にやりたいことを見つけて仕事にしたい」「起業したいけれど日本語ができないから難しい」などと話してくれた10代の若者たちもいました。

日系外国人コミュニティの若者たちが日本で自ら望む人生を選びとれるよう、日本語習得の機会を提供する取り組みの必要性が見えてきたため、本事業を開始しました。



「学ぶ人」に合わせた「学ぶ場」の多様性

岐阜県瑞穂市および各務原市でそれぞれ週に2時間ずつ、日系フィリピン人コミュニティの中で日本語教室を開講しました。公的な性質を帯びる地域日本語教室は、広く多様な背景の方を受け入れるのが一般的です。しかし、社交的ではなく、知らない人と関わるのが苦手な人にとっては、やや行きづらい場所のようです。本教室のように、同じコミュニティの知った顔の人が多く集まる教室だから安心して通えるという人や、そういう場でなければ通えないと思う、と話す人もいました。

また、漢字圏の地域出身者と、非漢字圏の方々とが同じクラスで学習した場合、文字の読み書きに大きな差が出てしまうことは少なくありません。そういった経験をすでに何度かしてきた学習者は、「地域日本語教室に参加しても結局取り残されてしまう」と考え、足が向かなくなるそうです。その点、同じ言語話者の学習者が多い本教室では、ゆっくり自分のペースで学習できたことが1年間通い続けられた理由だった、と語った人もいました。

これからの社会において地域日本語教室はどうあるべきか。学ぶ人が多様である以上、学びの場もまた多様である必要があると考えられます。



瑞穂教室



各務原教室

オンラインと対面教室のハイブリッド化に向けて

コロナ感染者が著しく増加した時期には休講を余儀なくされました。感染拡大が落ち着くと、今度は他の利用者との競争となって公共施設での会場確保が難しくなり、民間施設に移行せざるを得なくなりましたが、利用料は高価でした。こうした場所的・経済的制約を越えられる柔軟な学習機会としての「オンラインクラス」の受講希望を学習者にアンケートをとったところ、それほど抵抗はなく、対面教室と同等のニーズがあることが分かりました。一方、「コミュニケーションを取るのが苦手だから（対面で）練習したい」、「時々はみんなと顔を合わせて勉強したい」といった声も聞かれました。こうした学習者の意見から、次年度は、月に1回程度は対面で学べる場を維持しつつ、オンラインの学習機会も並行して拡充する、言わばハイブリッド型教室を試行することとしました。

3. オンライン子どもの日本語教室

目的	オンラインツールを活用して外国ルーツの子どもの日本語教育を個別最適化する。日本語教室が自宅から遠すぎて通えないという地理的制約や、新型コロナウイルス感染者の急増、天災など様々な要因で対面での学習が継続できない環境下でも、外国ルーツの子どもたちの学びを途切れさせない仕組みを創る。
内容	日本語学習を必要とする子どもと日本語教師をコーディネーターがマッチングし、個別または2～3人までの少人数で、オンライン日本語レッスンを行う。
対象	外国にルーツをもつ幼稚園年少児～中学生
担当	日本語教師・コーディネーター：日本語教師有資格者
ツール	レッスン：Zoom 連絡：Slack
時期	2022年6月～2023年3月
人数	5名（2023年2月末時点）

保護者の声から

子どもたちの保護者にアンケートをとりました。以下の2つの質問に対する回答を抜粋して掲載します。当然ながら、オンラインレッスンにも「できること」と「できないこと」があります。子どもと先生がそれぞれ世界中のどこにいてもつながれることや、自宅からすぐにつながって時間を効率よく使えることはオンラインのメリットです。一方、友達や先生と一つの楽しい空間を共有することで生まれるモチベーションへの好作用は、対面教室の強みです。

次年度に向け、どちらかではなく両方の場を並行して拡充するための施策に、協働先と連携を図りながら取り組みたいと考えています。

Q1. このオンライン日本語クラスのどんなところが好きですか？

先生が子どものレベルに合わせて色々準備して下さることとか、よく間違える部分を子どもに授業で練習させて下さる細やかな部分とかが好きです。

家で授業を受けることができるので時間のやりくりができて合理的なところや、先生が根気強く接して下さるところです。

Q2. あなたは今、お子さんの日本語について何か悩みがありますか？

話す意欲が（まだ）低いです。

毎日日本語を使う機会が少ないので、オフラインコース（対面教室）にも参加したいです。

4. 外国ルーツの住民支援団体ネットワーク

目的	外国ルーツの子どもを始めおよそ 300 万人におよぶ外国ルーツ住民が誰ひとり取り残されない社会の実現に向け、社会的リソースを効果的につなぎ合わせ、成果創出を加速させることを目的とする。
内容	子ども対象の日本語教授法や教材、教室運営方法等の知見を共有する地域日本語教室の広域ネットワークや、多様なセクターとの協働ネットワークの構築を行う。
対象	子ども対象の地域日本語教室運営者および講師、連携先団体担当者
時期	2022 年 4 月～ 2023 年 3 月

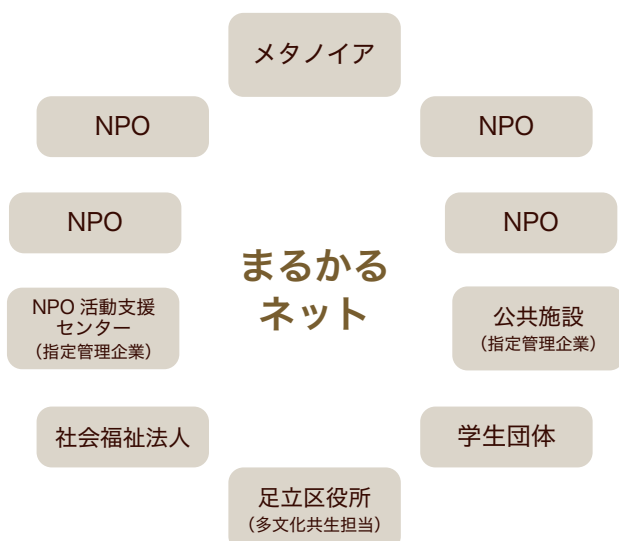
子どもの日本語教室ネットワーク（全国）

全国の日本語教室運営者や、これから教室を開こうと考えている団体などと連携し、知見や事例を共有するネットワークを築いています。また、必要に応じて資金調達や求人を協力して行ったり、困難ケースの解決に向けた議論をしたりもしています。

こうした連携により、対面学習機会の拡充と、質の向上に貢献できると考えています。



地域支援者ネットワーク（東京都足立区）



本事業で実施した「あだちプレスクール」が行われている東京都足立区では、外国ルーツの子ども支援に関係する官民入り混じった多様なセクターによる「まるかるネット」（左図）を構築しています。隔月の定例会で情報や意見の交換をするほか、日本語学習希望者を相互に紹介したり、連携の覚書を交わして事業を共催したりしています。

多様なセクターが互いのリソースを持ち寄り、足立区内の外国ルーツの子どもを一体的に支えるシステム作りを進めています。

まとめ

対面教室の必要性和オンラインの可能性

本事業における「あだちプレスクール」と「岐阜おとなの日本語教室」の実践を通じて、対面形式の学びの場への確かなニーズがうかがえました。しかし、新型コロナウイルス感染者の急増や、遠方の自宅から通うことが難しいという地理的な制約などにより、学習希望者の受入れや対面教室の開講そのものができない場面も少なからずありました。一方、「オンライン子どもの日本語教室」の取り組みでは、コロナ禍の影響を受けなかっただけでなく、遠方の子どもたちへの学びの場の確保が実現でき、新たな支援の可能性を見出すことができました。

ハイブリッド型支援へ

全ての学習者にオンラインレッスンが適するという事は当然ありません。また、オンラインレッスンが対面レッスンの完全な代替手段となることもできません。対面の場の価値は、コロナ禍を生きてきた我々一人一人が身をもって実感できることだと思います。こうした対面コミュニティの必要に応えつつ、あらゆる制約を越えられる柔軟な学習機会としてのオンラインクラスも並行して拡充する、言わばハイブリッド型支援が必要であるということが、この一年を経て見えてきました。次年度は、対面とオンラインの両方をうまく組み合わせた支援体制の拡充に注力したいと考えています。

支援者ネットワークの構築

また、本事業を通じて連携先の団体と協力してプレスクールや日本語教室を実施したり、知見や事例を共有して困難ケースの解決を図ったりするネットワークを築いてきました。こうしたネットワーキングにより、私たちが直接的に支援する教室を全国で開いていくよりも圧倒的に早く、より多様で豊かな実践が全国に広がるのが期待できます。あらゆる社会リソースを有機的に結びつけ、外国にルーツをもつ住民が幸せに生きていける社会の実現を加速させていきたいと思っています。

私たち「みんな」の幸せのために

多様性豊かな外国にルーツをもつ住民が一人残らず社会とつながり、それぞれ持って生まれた力を活かして何か意義あることを成し遂げられたら、きっとそれはその方々のみならず、この社会に生きる私たち「みんな」にとっての幸せにつながるでしょう。そのような社会の実現に向けて私たちメタノイアは、活動を持続可能なものとする足腰の強い組織基盤を築きたいと願っています。そのためには、皆さまから継続的なお支援が必要です。外国にルーツをもつ多様性豊かな次世代のため、そして我々みんなの幸せのために、どうか歩みを共にしていただけないでしょうか。よろしく願いいたします。

寄付でささえる



あなたのご支援が
未来を変える大きな力になります。

▶ クレジットカード



毎月 1,000 円～ 〈マンスリーサポーター〉
希望の金額を今すぐ 〈今回のみの寄付〉

いずれも、下記 URL または右の QR コードから、
当法人ウェブサイトへアクセスしてお申込みください。

NPO 法人メタノイア 寄付ページ <https://metanoia.or.jp/donation/>



▶ 銀行振込

上記 QR コードまたは URL から、お申込みを受付けております。

▶ 郵便振替(現金) / ゆうちょ銀行電信振替

本報告書に紙の郵便振替「払込取扱票」が添付されている場合は、そちらを
郵便局の ATM または窓口にお持ちいただければ、現金でご寄付いただけます。

また、ゆうちょ銀行の電信振替(口座間送金)もご利用いただけます。

口座記号番号 00150-6-768645

口座加入者名 特定非営利活動法人メタノイア

*電信振替の場合は、通信文の欄に「寄付」とご記入ください。

*恐れ入りますが、手数料はご負担いただきますようお願いいたします。



最新情報はこちらから

ニュースレター（メール配信登録）

<https://metanoia.or.jp/newsletter/>



Facebook : [METANOIAorjp](https://www.facebook.com/METANOIAorjp)

Twitter : [@METANOIAorjp](https://twitter.com/METANOIAorjp)



2022年度「外国ルーツの住民と社会をつなぐ日本語学習支援ネットワーク構築事業」報告書

発行日 2023年3月31日

発行者 特定非営利活動法人メタノイア

〒121-0815 東京都足立区島根 2-21-19 リトルハイム 203

TEL 03-6755-8345 Email office@metanoia.or.jp WEB <https://metanoia.or.jp/>